

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

岐阜市長 柴橋 正直

市町村名 (市町村コード)	岐阜市 (21201)
地域名 (地域内農業集落名)	方県地区 (村山・安食・石谷・彦坂・岩利・佐野)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和8年1月13日 (第3回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

人・農地プランの中心経営体である認定農業者等を中心とした農地の集積・集約化を進めている一方で、中心経営体ではない農業者による農業経営も継続している。
しかし、高齢化などにより、離農が進み担い手のみで農業環境を維持していく事は難しい。
地区内の農地及び担い手を維持していくためには、効率的な農地利用を推進することが不可欠である。

(2) 地域における農業の将来の在り方

各集落において、人・農地プランの中心経営体である認定農業者等への農地の集積・集約化を進めていく。中心経営体ではない農業者の農地利用についても効率的に行えるよう、農地の利用調整を進めていく。また、入作を希望している認定農業者等がいれば積極的に受け入れを促していく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内的の農用地等面積	214.55 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	214.55 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	- ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注: 区域内的の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針

地域の中心となる担い手に農地集積、集約を図り、また入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受け入れを促進することにより対応していく。

(2) 農地中間管理機構の活用方針

農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を農地中間管理機構に貸し付けていく。
担い手が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、農地中間管理機構を通じて担い手への貸付けを進めていく。

(3) 基盤整備事業への取組方針 石谷エリアは暗渠排水整備によって、水稻、麦、大豆等の栽培を推進する。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針 人手不足に対応するため、地元出身者やその親族及びその他、外部からの人材を受け入れし、地域での育成に取り組む。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針 なし

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input checked="" type="checkbox"/> ⑨耕畜連携	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①補助金等を活用し、地域による鳥獣害対策の侵入防止柵の設置及び管理に取り組んでいる。
- ②有機農業を推進するエリアとする。
- ⑤ワイン用のブドウ栽培や新規就農者のイチゴ栽培を行っている。
- ⑦耕作放棄地の減少を目指し、農地の維持に努める。
- ⑨畜産業の牧草管理をしている。